

「地質情報展 2024 やまがた応援プロジェクト」 開催報告

見邨 和英¹・宍倉 正展²・利光 誠一²・川邊 禎久³・須田 好²・板木 拓也¹・瀬戸 大暉⁴

1. はじめに

産業技術総合研究所(以下、産総研)地質調査総合センター(以下、GSJ)が山形県立博物館と共に主催する「地質情報展 2024 やまがた応援プロジェクト」が、2024年8月3日(土)、4日(日)の2日間、山形城址内にある山形県立博物館(第1図)の1階体験広場にて開催された。本イベントは同日程で山形県立博物館が開催したイベント「やまはく de 夏まつり」の一環として開催され、親子連れを中心に400人を超える方に来館して頂いた(第2図)。

1.1 本イベント開催の目的

2024年9月6日(金)から8日(日)にかけて、山形駅前の山形テルサにて、GSJと産総研東北センター、産総研福島再生可能エネルギー研究所、日本地質学会が主催するイベント「地質情報展 2024 やまがた—山と盆地をつくる大地のヒミツ—」が開催された。ここでは、火山噴火実験や化石レプリカづくりなどの体験イベントや、東北地方の地質図・地球化学図や県の石などの展示・解説が行われた。

今回の山形県立博物館でのイベントは、1か月後に開催される地質情報展 2024 やまがたの応援プロジェクトとし

て、地元の方の関心を高めることを目的に開催された。会場ではデジタルサイネージにて案内を表示するとともに、来館者にはチラシを渡して告知を行った(第3図)。

2. 展示内容

2.1 歩ける床貼地質図 地図によって地質探し

山形県を中心とする20万分の1日本シームレス地質図を2m×3mのサイズ(2倍に拡大した10万分の1縮尺:地図上の1cmが1kmに相当)で印刷して、床貼りで展示を行った。参加者は実際に地図の上を歩きながら、山形の地形と地質の関係、山と平地での地盤の違いなどを体感していた(第4図)。



第1図 山形県立博物館の外観。



第2図 イベントスペースの全体写真。

1 産総研 地質調査総合センター地質情報研究部門
2 産総研 地質調査総合センター連携推進室
3 産総研 地質調査総合センター地質情報基盤センター
4 山形県立博物館 〒990-0826 山形県山形市霞城町1-8

キーワード：アウトリーチ、地学教育、普及活動、地質情報展



第3図 配布したパンフレット及びデジタルサイネージ。



第4図 床貼地質図の上での説明の様子。



第5図 反射式実体鏡を用いて航空写真の立体視を行う様子。

2.2 空から見た写真で活断層探し

反射式実体鏡やアナグリフ(赤青メガネを使うと立体的に見える地図)を用いて山形県の地形を立体視し、活断層を探す体験を行った(第5図)。体験されたみなさんはまず地形が立体に見えることに驚くとともに、地形の観察の面白さを感じていただいたようである。特にNHK「プラタモリ」でタモリさんがわずかな崖を「活断層ですね」と言っている理由がよくわかった、という来場者もいて、活断層の動き(地震の発生)と地形との関係を多くの方に理解していただけたと感じている。

2.3 触れる岩石標本 石の重さ比べ

地球の表層(地殻)から深部(核)までの代表的な岩石の重さを手に取って比べることで、地球の内部構造やプレート

の沈み込みについて理解を深める展示を行った(第6図)。地表から地球の深部に行くほど岩石の密度が大きい(重くなる)こと、そしてその裏返しとして地表から飛び出すほど軽い岩石もあることなど、実際に手にとって体感していただいた。軽い岩石として、2021年に小笠原諸島の海底火山「福德岡ノ場」から大量に放出されて大きなニュースになった軽石を教材に用いたが、手にとった参加者からは、その「軽さ」に驚きの声が上がっていた。溶岩1個と軽石何個でつり合うかのクイズ形式の重さ比べでは、当たった！残念…と一喜一憂するお子さんたちの姿が見られた。

2.4 のぞく微化石の世界 顕微鏡で小さな化石さがし

顕微鏡を使って小さなプランクトンの殻を観察する体験を実施した。まず、実体顕微鏡を用いて南極海の堆積物か



第 6 図 身近な道具を用いた軽石と溶岩の重さ比べ。



第 7 図 実体顕微鏡を用いて微化石を観察する様子。

ら有孔虫を観察してもらった(第 7 図)。また、マリアナ海溝の堆積物から作成された放散虫のプレパラートを事前にスライドスキャナーで撮影し、モニター上で観察範囲や倍率を自由に変えながら観察してもらった。最初はただの砂粒に見えた微化石の輪郭が見えてくると、「きれい…」などの感嘆の声が上がった。今回の体験を通じて、恐竜やアンモナイトなどの目に見える化石と比べて知名度が低い微化石の世界を多くの方に知ってもらえたのではないかと感じた。

3. 終わりに

来場者からは9月の地質情報展にもぜひ参加したいという声を聞くことができ、非常に嬉しく感じている。一般の方にはあまりなじみがない地質の研究であっても、実際に「見て・歩いて・手に取って」体験してもらうことで、身近に感じてもらえたのではないかと。「地質情報展 2024 やまがた」にも多くの方に足を運んでもらえることを期待している。

また、本イベントは山形県立博物館の夏まつりイベントの一環として開催されたこともあり、多くの学生やお子さんに来場いただくことができた。本イベントへの参加を通じて地質学に興味を持つ若者が一人でも増えていれば幸いである。

謝辞:山形県立博物館の皆様には本イベントの準備、設営、開催に際し多大なご協力を頂きました。同博物館が主催する学芸員一日体験講座に参加した高校生には会場設営のお手伝いを頂いたほか、山形市立第二中学校の石岡康代先生には展示説明や会場の案内等でご協力を頂きました。また、

本イベントで岩石試料は地質標本館に提供頂きました。展示物の準備には地質情報基盤センターの川畑 晶さん、連携推進室の長江敦子さんにご協力頂きました。また、本稿の執筆にあたっては連携推進室の小松原純子さんにご協力を頂きました。皆様に深く感謝申し上げます。

MIMURA Kazuhide, SHISHIKURA Masanobu, TOSHIMITSU Seiichi, KAWANABE Yoshihisa, SUDA Konomi, ITAKI Takuya and SETO Hiroki (2025) Report on a preliminary event to the Geoscience Exhibition in Yamagata 2024.

(受付：2024年10月10日)